

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称
第2回上浦地域審議会

2 開催日時
平成28年2月25日（木） 19時00分から21時10分

3 開催場所
佐伯市上浦大字津井浦1400番地3
上浦振興局 2階 小会議室
（地域審議会委員）

会長 山矢 隆彦 副会長 鱈石 朝子

委員 岩崎 由紀子、河野 亜紀、木村 竜也、野田 郁子、森崎 秀信

（委員10名中7名出席）

（上浦振興局）

振興局長兼地域振興課長 亀山 伸太

課長補佐兼係長 西海 正実 副主幹 管 正晴 （3名）

（秘書政策課）課長 武田 晴美

5 公開、非公開の別
公開

6 傍聴人数
0人

7 議題及び結果

1) 「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

2) 上浦の地域振興について

「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、今後第2版以降の策定に向けて意見を出していくことを確認した。その後上浦の地域振興について意見交換を行った。

8 審議の内容

○「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容について秘書政策課、上浦の地域振興について年齢別人口と個人・団体から聞き取った意見等について事務局から説明後、審議を開始した。

※以下は、質疑応答の抄録であり、実際の発言と言い回しが異なる部分がありますので、ご了承ください。

会長 ただいま説明のありました「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、質問・意見はありませんか？ないようでしたら、今後第2版以降の策定に向けて意見を出していくことでよろしいですか？

委員 異議なし

会長 上浦の地域振興について意見交換したいと思いますので、活発な意見を出してください。

秘書政策課長 なかなか意見も出にくいので質問しても良いか？どこの振興審議会でも異口同音に地域のためになることは意見としてでるが、自分自身に置き換えてどうしてほしいか？余所から来た人が増えたら、自分はどうだろうか？・・・個人的意見を聞くと、苦しみたくないとか、面白いことをしたいとか、おいしいものを食べたいとか、おしゃべりをしたいとか、本音がでる。上浦ではサザエ、アワビの漁礁を整備したり、マグロの養殖発展の整備をしたり、これが今住んでいる人の幸せに繋がるのか？住民が毎日の生きがい、楽しみを求められるようなことはないか？地域の振興と、個人の幸せを求める方策のふた通りの振興策が考えられる。話が飛び飛びになって申し訳ないが・・・

局長 今年までに上浦では「茶の間」が4カ所できた。高齢者は集まって活動することが楽しいように思われる。おもてなし、おもてなしとよく言って予算を使っているが、余所から来る人に良くしてあげるのはいいのか？それでは住んでいる人が良くなるのでは・・・

委員 高浜の患者さんを送迎しているが、桜の時期なので車の中で、河津桜まつりでの地区の活動内容・成果等を聞くと「ひじき」を販売しており、区長が採取し、おばあちゃん達が加工し、袋詰めしているらしい。先日の日曜日は、浜が大渋滞で誘導もしたらしい。「植えた、知られた、人が来た」が、苦労して作った300円ほどのひじきがどれほどの経済効果が上がるかは分からない。少人数の人に負担がかかっているだけで、大浜、蒲戸、福泊に同様に桜を植えて何か得るものがあるのかとを感じる。

秘書政策課長 自由な意見交換ということで話をすると、車が渋滞して何が・・・ということも確かにあるが、中には「獲ったひじきを買ってくれた」という満足感や、「余所から来てくれた」という心の温かみを感じたり、「獲るのが好きだ」という人も中にはいるかもしれない。そんな所にもチャンスがあると思う。

委員 そんなイベントを地区のお年寄りに負担をかけるだけではなく、行政側もサポートをしてきちんとした形でやれば良いと感じる。

秘書政策課長 携わっている人たちが楽しんでなければいけないとは思う。少しの仕掛けから始まることもある。

局長 上浦のイベントは特に地域の人たちが楽しむイベントになっているが、余所から人を呼び込むイベントとして上浦は、豊後二見がある。来年度は高齢者、身障者でも負担なく上がれるようにスロープをつける予定。地域の良さをアピールできる場所。上浦は高齢者が集まる。先日も高齢者大学の閉校式があったが、100名を超す参加者があった。人口比率にして5%になる。これはすごい。

委員 私は上浦は楽しい。昼間は市内で働いている。何が楽しいかはっきり分からないが、コーラスをしているのは楽しい。これがあるといいなと思うのは、上浦にコンビニが欲しい。東京にいた時は地下鉄を上がると、マック、コンビニがある。何をかうわけでもなく、コンビニは寄るのが楽しい。東京であろうと田舎であろうと、同じものがある。情報の共有

がある。地域のおばあちゃんは、車に乗って街に買い物に行くことを楽しみにしてたり、病院に連れて行ってもらうことを望んでいる。先ほどの話の中で、四浦の渋滞話が出たが、県道沿いにある桜を見るのだから渋滞は起こるに決まっている。四浦のことなので余計なお世話だが、シャトルバスを出すとか、ウォーキングを勧めるなど渋滞緩和方策を考えるべき。私の地区でも普段は車の往来も少ないのだが、先週の日曜日などは宮崎ナンバーの車も何台も通った。ここまで渋滞になるほど集客があるのであれば、上浦を素通りされるだけでなく、お客を呼び込む対策はないものか。しおさいの里、すし駒、しらなみ寿司、塩湯などのPR(看板等)できないか。TVや広告などを上手く活用できないか。人は通っているのに損した気分になる。

委員 平日に四浦を通ると、もみじマークの車が多く、無法地帯となっている。道路の真ん中に止まったりして危険。植えるだけ植えて、対策を講じてないとトラブルになる。明らかに昨年より今年の方が多。

局長 確かにTVの効果は絶大。今年度の豊後二見もかなりTVで宣伝し効果を得た。

浅海井駅が九州最東端の駅になっているので、何かそれを利用したら・・・浅海井駅前がこうなったらいいとか・・・どんな意見でもいいのでありませんか？

委員 最近、年配の女性の方から、カフェをすると噂されている。自分からするとは言っていないが、勝手にすると決めつけられている。確かに景色がいいので、お菓子を買って食べてもらえればとは思っているが・・・。

委員 希望的感覚でそこにカフェがあったらと思う。私も行くつもりやっ。

秘書政策課長 店の建物を造るのに市の予算を充てることは出来ないが、いかに地域の人が後押しをするか・・・上浦にはコンビニもなく、喫茶店もないので、あったらいいなと思う地元の人がその思いを広げていくのも何か切り口かも・・・

委員 私は子育て世代なので、子どもが居てこそ地域は賑わうと思っている。学校でも高齢者が来て、世代間交流をやっているが、お互いが楽しんでいる。どうにかして、若者世代を呼べないか？学校も立派なので留学などもできないか？家がなければ定住はない。空き家など上手く利用できないか。多少の不便はあるが、市内まで30分ほどで行け、住むには凄く良いと思う。

秘書政策課長 役所に地域振興課があり、空き家対策をやっているが、空き家の確保・賃貸が難しい。貸さない理由として、仏壇があるとか、年に数回は帰ってくるとか、思い出があるとか。空き家があるのに使えない。ただ、空き家があっても、借りる人の条件で、上下水道が整備されているか、インターネットが使えるか、TVの視聴できる番組は多いか、保育所が近くになるか、スーパーが近くにあるかなど、数多くの条件を求めてくる。空き家対策について、もっと細かく条件整備するよう市役所で考えている。

委員 TVで見た情報だが、新築の家を購入するのに補助するものがあつた。そこに住むことのメリットを前面に出すことで、地域が盛り上がった例があつた。

委員 中高年を相手にダンスをしていますが、どこに行っても、参加する人はする、しない人はしない。来ない人は、来ないから良さが分からない。今、特に足裏のマッサージをやっているが、認知症の予防、病気の予防にもつながり、医療費の削減にもつながると思う。是非、多くの人に来てもらいたい。社会福祉協議会からの委託で、いきいきサロン等で活動している。4地区で月1回やっているが、なぜか人口の多い地区が参加者が少ない。一度

来れば、あとは自宅で一人で出来るので、是非多くの人に参加してもらいたいと思う。全くお金もかからないので・・・埼玉県のある所では「笑いヨガ」を普及させているところもある。

委員 佐伯市は子どもの医療費を出しているが、病気になって病院に行ってもタダだからと、予防に目を向けないため、医療費意識が低くなっているのではないか。

秘書政策課長 大分県下でも中学生までの医療費を無料にしている自治体はいくつかしかないが、それがいいか悪いかはともかくとして、統計を見れば、無償化実施前後のかかった医療費を集計すると、医療費総額は減っている傾向にある

委員 それは相対的に児童数が減っているのもあると思う。

秘書政策課長 それは確かにあるかもしれません。

委員 これまで意見交換をやって意見も多く出され、また上浦に限らず、市全体の意見もたくさん出ている。ただ、全ての意見を叶えることは現実的に不可能なので、いまからはその意見を絞っていき、実現に向けて考える時期ではないかと思う。意見を多く聞くのは大切なことではあるが、意見を聞いてばかりでは前に進まないで、4つの柱が出来ているのだから、それに繋がる意見の集約が必要かなと思う。上浦は、高齢化率が高い地区なので、「高齢者の生きがい」は何か、ということと、激減する子どもの現状を考えると少子化対策が望まれるような気がする。

会長 何をするのにも時間がかかり過ぎる。自分も携わってきた高校の通学補助の問題も5年はかかった。年数が経過すれば、必要性がなくなることもある。夢を語ったって何十年もかかる。100万円の有効利用もそうだが、上浦をどうするかを入口を築かなければならない。動き始めるきっかけを作ることが必要。そんな審議会でありたい。任期はあるがみんなで頑張りましょう。コンビニも大変利便性も高く、有効なので自分も考えたこともあるが、高齢者が多ければ、コンビニよりも総菜を提供できるような店の方がありがたいかも・・・食べ物屋は、音と匂いが重要。集客に差が出る。いろいろ違う発想を必要とする。四浦半島の河津桜も、見に行った人は、上浦の店、津久見の店、何処にも寄らずに帰っていくため、集客するアイデアが必要。話をしているだけでヒントが出てくる。みんなで何らかの爪痕を残しましょう。

局長 会長の言う入口をつくりましょう。発想の転換と言えば、TVの受け売りだが、青森県は全国で平均寿命が一番短く「短命県」で売り出している。何を食べたら寿命が縮まるかを宣伝し、ツアー客が来ているらしい。いろいろヒントはあるので、上浦を良くしていくために、話をしていきましょう。

会長 今日は大変お疲れ様でした。次回もよろしくお願ひします。

閉会

9 会議の資料名一覧

- ・「佐伯市まち・ひと・しごと創生の全体像」
- ・「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第1班」
- ・「地域振興審議会意見一覧」
- ・「平成28年度当初予算（案）の概要」

- ・「まち・ひと・しごと創生の進捗状況について」
- ・「まち・ひと・しごと創生の進捗状況について」
- ・上浦地域の年齢別人口
- ・地方創生に関する意見交換、聞き取り表

10 問い合わせ先

担当課 上浦振興局 地域振興課 地域振興係

電話番号 0972-32-3111